

第9学年 学びのカテゴリー「社会に生きる」

生徒は、これまでのどう生きるか、学びのカテゴリー（探究領域）ごとにある様々な問題を発見し、その問題を自分のこととして捉え、解決しようと考え判断し、行動してきた。その経験を通して、社会に生きる人々は様々な見方や考え方をもちながら生きていくことを学び、前向きに自分の得意なことや苦手なことと向き合い、将来を見据え考え始めている。そんな生徒が第8・9学年で探究する学びのカテゴリーは、「社会に生きる」である。多様な価値観をもつ人が生きる社会の中で「自分はこれからどう生きていきたいのか？」を考え、テーマをもち、自身の将来を見据えながら探究する。生徒が自身の将来を考える中で、社会や自分に必要なものや磨くべきことを模索し、判断し、それらを確認させるために行動する姿の具現を目指していく学びである。

第1単元「社会を考える」では、各グループで設定した探究テーマを基に東京研修で調査活動を行った。

「多文化共生」をテーマにしたグループでは、外国人と共に住むまちづくりを目指す活動を行っている市民活動団体の方に話を聞き、互いに理解し合うことや相手を大切にしようとするのが、多文化共生社会の実現に大切であると学ぶことができた。グローバル化が進む多文化共生社会の中で、どう生きるべきかを考えたいという願いをもち、岐阜市の現状や在住外国人の思いを調べ、自分の中にある壁に、どのように向き合えば、様々な国や地域の人と互いに理解し合うことができるのか考え続けている。

「地域の魅力づくり」をテーマにしたグループでは、アートを取り入れて街の魅力を創出している企業を訪問して話を聞き、アートの魅力や可能性を通して地域のもつ魅力を活かすことができると学んだ。岐阜でアートを活かした活動や地域の魅力づくりをしている人と出会い、柳ヶ瀬商店街で行われるイベントの企画・運営を協働して行った。このような取組が、継続的に行われるように、その改善案を提案するなど、社会に関わり続けようとしている。

潮田 航大
大塚 光朗
浅井 拓也
丹下 侑輝
高橋 亮
大坪 雅詩

第9学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		実社会や実生活の中にある問題に対する問いを生み出し、社会がよりよくなるように自分に何ができるか様々な視点や立場から考え、行動することができるようにする。										
	(2) 関係構築力に関わって		仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、自他の願いや考えを踏まえた上で、他者と協働しながら納得解や最適解を導こうとすることができるようにする。										
	(3) 貢献する人間性に関わって		自分や社会について考え、社会に生きる人々に敬意をもちながら、自分にできることを進んで考え、他者とともに社会のために行動しようとする態度を養う。										
カテゴリー設定の理由	7年生までに、様々な問題と出会い、解決していく過程で、自分を取り巻く社会で生きる人々は、いろいろな見方や考え方を生きていることを理解しながら学んできた。自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、自分の将来のことも考える時期である。これまで学んできたことを生かし、多様な価値観をもつ人が生きる社会で「自分はこれからどう生きていきたいのか?」を考え、自身の将来を見据える。その将来を考える中で、自分に必要なものや磨くべきこと等を模索し、判断し、それらを確立させるため行動する姿を具現させたい。												
学びの基盤となる道徳的諸価値	自主、自立、自由と責任・向上心、個性の伸長・希望と勇気、克己と強い意志・真理の探究、創造・思いやり、感謝・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労・よりよい学校生活、集団生活の充実・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度・国際理解、国際貢献・自然愛護・よりよく生きる喜び												
学びを構成する要素	社会 社会問題 国際理解 国際問題 日本と諸外国の違い 多文化共生社会 自然環境 SDGs 勤労 多様性 伝統文化 食文化 福祉 地域社会 働き方 政治 テクノロジー 社会貢献 ウェルビーイング												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
単元名(時数)	社会を考える (52時間)				多文化共生社会の実現に向けて情報収集すること	社会をつくる (41時間)				社会に生きる (12時間)			
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○各自の問いをもとに、探究テーマを考える。 ○探究テーマをもとに、どんな活動をしたいかを考える。 ○東京研修で見てみたいこと、聞きたいことをもとに、研修先を大久保地域に決める。 ○大久保地域で誰に会い、どんなことを聞いたり調べたりしたいか、研修の計画を立てる。 ○東京研修で体験活動や調査活動を行う。学んだことをまとめる。 ○私たちの生活する岐阜ではどんなことを考えたり探究したりできそうか、東京研修で広がった視点を軸しながら考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○東京研修での学びをもとに、岐阜で多文化共生に関わってどんなことをしたり考えたいか話し合う。 ○自分たちが学びたいことについて関わりのある団体や人について考え、出会う。 ○出会った方々と、多文化共生や岐阜の現状について対話する。 ○多文化共生について学んできたことをもとに、夏休み中の個人探究についての計画を立てる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○夏休み中に行った個人探究について、グループ内で交流する。 ○もっと多くの外国人や、様々な立場の方々の思いを聞くには、誰とアポイントメントを取り、どんな活動していくとよいかを考える。 ○岐阜市国際交流協会や、外国人留学生などと対話したり文化交流をしたりすることを通して、多文化共生についての理解を図ったり、誰もが住みやすい社会について考えを深めたりする。 ○自分たちと関わってきた方々と日本文化や他国の文化を交流し合い、もっと互いに分かり合えるようなイベントを企画し、実行する。 ○自分の問いを振り返り、自分の考えのどのように変化したのか、またそれはどんな体験や思いがあったからなのかを客観的に見つけ、まとめる。 ○実施してきた活動や交流を振り返った上で、多文化共生とはどのようなことが自分の考えを見つめ直す。 				<ul style="list-style-type: none"> ○多文化共生に関わって学んだことや考えたことを、市役所や国際交流協会の方に発信する。 ○自分が学んだことやまとめたことについて、自学級に戻り交流する。 ○自分の問いについてまとめたことや、仲間の学習から学んだことをもとに、自分の考えの変容や成長をまとめる。 ○どう生きるかの学習で学んだことや考えたこと、自分の生き方についてまとめたことを、後輩に伝える。 			
想定されるエラー(■)ジレンマ(●)【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> ■個々の問いはみんな違うけど、その中でどんなことをみんなと考えていけばいいのだろう。 ■東京と岐阜では、住んでいる外国人の数が違うし、生活の様子や環境も違う。そのため、住んでいる人たちの考え方や意識も違う。どちらの考え・実態も分かるけど、どちらを尊重して活動していくべきだろうか。 ●1つの問題を解決しようとする、別の問題が出てくる。どちらを優先的に考えるべきなのか。【 相互理解、寛容 社会参画、公共の精神 勤労 国際理解、国際貢献 真理の探究、創造 】 												
人材活用施設	共住懇 代表 山本重幸さん 岐阜市役所 国際課 岐阜市国際交流協会 多文化交流プラザ		岐阜市役所 国際課 岐阜市国際交流協会 多文化交流プラザ 岐阜大学 留学生センター 岐阜県国際交流センター				岐阜市役所 国際課 岐阜市国際交流協会						
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：聞き上手になろう～質問で問いや考えを引き出す～ ・社会：二度の世界大戦と日本、現代の日本と私たち ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 												

9年Aグループ 単元シート		本単元の目標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 「社会」をつくる (41)		① 自分の問いやグループの探究テーマに迫るために、誰と出会い、どんな活動を行うか計画を立てることができるようにする。 ② 問題解決に向けて何ができるか、様々な視点から手段・方法を考え、行動することができるようにする。	① 問題解決に向けて、実社会に生きる人や仲間との関係を築きつつ、その考えや価値観を受け入れることができるようにする。 ② 他者との関わりで導いた納得解や最適解のもとに、自分の関わり方を見つめることができる。	① 実社会に生きる人や仲間の多様な価値観に気づき、敬意をもって働きかけようとする態度を養う。 ② 自分にできることを考え、積極的に活動に参加したり、提案しようとしたりする態度を養う。
活動の計画	○夏休みに個人探究したことを交流する。交流したことや今までの学習をもとに、個人の問いやグループの探究テーマに迫るためにはどんな学習をしたいか考え、計画を立てる。(問題①) ○多様な立場や考えの方と対話し、多文化共生について理解していきたいという願いを基に、たくさんの外国人が集まる場所を調べる。(貢献①) (5)	○岐阜市に住む外国人と対話や活動をし、思いや考え方、互いの文化を交流する。(関係①) ○体験をもとに対話し、自分の考えを深めたり、広い視野で考えたりする。(貢献①) ○継続して外国人と関わり、一緒に活動する中で、もっと関わりをもつ方法や工夫を考える。(問題②) (16)	○これまでに学んだことや話し合ったこと、体験したことをもとに、「岐阜市の魅力エンジョイツアー」のコンセプトや企画内容について話し合う。(問題①) ○企画した内容について、多様な立場や考えの方から意見を聞き、それらを受け入れた上で修正する。(関係①) ○自分たちが考えたツアーを留学生にPRし、参加者を募る。(問題①) (12)	○自分たちができることとして計画したツアーを実践する。(貢献②) ○実践した活動について、外国人からフィードバックやアドバイスをもらい、自分たちの関わり方を見つめ直す。(関係②) ○学習してきたことや経験してきたことをふり返り、多文化共生に対する考えや意見について自分の考えを見つめ直す。(関係②) (8)
加除修正欄				
想定される姿	・普段気付かなかったけれど、身の回りには外国人の方々が安心して住めるような工夫がたくさんあった。 ・岐阜市は誰にとっても安心して生活できる場所なのかをもっと考えていきたい。 ・もっと多くの外国人の思いや考え方を知った上で、自分たちができることを考えていきたい。	・最初はうまく話せるか心配だったが、一緒に遊んだり話したりしていくうちに、気軽に話せるようになった。関わり、互いを知ることは大事だな。 ・偏見や差別を減らすには、もっと深く外国人と関わり、互いを理解し合うことが大切だと分かった。 ・人と人とのつながりが、安心や笑顔を生むのだと分かった。	・外国人の方々がツアーを楽しみながら岐阜の魅力を知ったり、お互いを理解し合えたりできる企画になるように考えて、実行していきたい。 ・関わっていくうちに、外国人というより「〇〇さん」という見方に変った。 ・相手が外国人でも日本人でも、相手のことを知ることが心の距離を縮めることにつながる。この学びを伝えていきたい。	・自分たちが考えたことや学んだことについて、多くの方に伝えていきたい。 ・相手を受け入れるという思いや、他者のことも大切にするという考え方が、多文化共生の実現には大切なのだな。
実際の姿				
■エラー ●ジレンマ	■無意識のうちに自分と相手との間に壁を作ってしまうのはどうしてなのか。	●どうすれば〇〇さんのことを、もっと仲の良い関係だと思えるようになるのかな。	■外国人の思いを尊重して企画したいが、すべて実現させるのは難しいな。	●体験を通して学んだことや考えたことは、どうすれば多くの方たちに伝わるか。

9年Aグループ 本時案 (南舎2階多目的ホール)

目標

外国人との体験や学習を通して考えた岐阜市内案内プランの内容をゲストティーチャーと対話する活動を通して、「差別や偏見をなくし、誰もが安心して生活できる多文化共生社会を実現したい」という願いを基に、自分と異なる立場の考えを受け入れながら、自分の意見や提案を見つめ直したり再構築したりすることができる。(関係構築力)

本時 (27/41)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 これまでの学習の歩みを振り返る。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どうすれば外国の方に岐阜市の魅力を楽しんでもらえるプランになるか。</p> </div> <p>○これまでの学習や体験を踏まえて、自分たちはどんなことを学び、考えてきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心して生活できる岐阜市にしたいという願いをもとに、岐阜市の取組を知ったり、岐阜大学の留学生の方たちと関わったりしてきた。留学生と関わることで、外国の方に対する見方が変わってきた。自分たちのことを知ってもらえるのはもちろんだけれど、相手の国や相手のことを知るのも楽しいことだと分かった。今日はゲストティーチャーの方々から意見をいただき、岐阜市の魅力をもっと知ってもらえるプランにしていきたい。 <p>2 自分たちが考えた企画をゲストティーチャーに提案し、意見やアドバイスを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えた企画のコンセプトを分かってもらえてよかった。岐阜市のよさや魅力を伝えたり、留学生の方たちと一緒に企画を楽しんだりしたい。 ・ゲストティーチャーの方から意見をいただいて、修正すべき点分かった。自分の経験や思いも入れてプレゼンできると説得力があるものになると分かった。また、日本のルールやマナーなどについてもツアーの中で伝えていきたい。 ・外国人目線での意見をもらえて、自分たちのプランを見直すことができた。相手の思いや立場を大切にしたいツアーにしたし、そういう気持ちが多文化共生につながるのだと思った。 <p>3 自分たちのプランは、岐阜市の魅力を伝えられる内容になっているかを見つめ直す。</p> <p>○みんなで考えた行き先を案内することで、本当に岐阜市のよさや魅力を伝えられるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金華山や岐阜城の詳しい歴史までは、うまく話せるか心配だな。事前にもっと調べておく必要がある。 ・人からの意見や予測では、説得力がないから魅力的ではない。自信をもって魅力を伝えながら案内できるといいな。 ・長良川と一緒に見るだけではなく、鵜飼や花火大会のこともそこで話すことで、より魅力が伝わるな。 ・自分は金華山に何度も登ったことがあるし、鮎菓子が好きだから、それらのよさや魅力を自分の経験を話しながら案内して伝えたいな。そうすることで、相手に自分のことをより理解してもらえることにもつながる。 <p>4 本時の振り返りをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験や思いを伝えることでより魅力が伝わるし、それにより相手ともっとつながりあえるのだと思った。お互いのことを理解し合えるように努力することが、多文化共生の実現には大切だと思ったし、ツアーのときだけでなく、外国の方と接する上で大切にしていきたい。 	<p>○これまで考えてきたことや学習してきたことを、代表生徒がゲストティーチャーに伝えながら振り返り、本時の学習の目的を共有する。</p> <p>○学習の中でどう考えたかについて、これまでの経験や、考えてきたことをもとに話せるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ゲストティーチャー候補</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会の方 1名 ・岐阜観光コンベンション協会の方 1名 ・岐阜大学の留学生 2名 <p>「外国人を支える活動をしている団体」「観光を促進している団体」「岐阜市に住む外国人」の3つの立場の方から意見をいただき、交流する。</p> </div> <p>○ゲストティーチャーの意見を聞いてどう思ったかを問い、自分の意見をふり返ったり、再構築したりできるようにする。</p> <p>○「なぜそう思ったの?」「どんな体験を通してそう思ったの?」など問い、考えが変化した理由や価値観の変容に生徒が気付けるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>ゲストティーチャーや仲間の考えを聞いて、自分とは異なる立場の考えに共感したり、その上で自分の考えを見つめ直したり、再構築したりしている。(関係構築力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子やノートの記述から見届ける。 </div>

9年Eグループ

年間指導計画

「学びの 카테고리」：社会に生きる (全105時間)

第9学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		実社会や実生活の中にある問題に対する問いを生み出し、社会がよりよくなるように自分に何が出来るか様々な視点や立場から考え、行動することができるようにする。										
	(2) 関係構築力に関わって		仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、自他の願いや考えを踏まえた上で、他者と協働しながら納得解や最適解を導こうとすることができるようにする。										
	(3) 貢献する人間性に関わって		自分や社会について考え、社会に生きる人々に敬意をもちながら、自ら進んでできることを考え、他者とともに社会のために行動しようとする態度を養う。										
カテゴリー設定の理由	第7学年までに、様々な問題と出会い、解決していく過程で、自分を取り巻く社会で生きる人々は、いろいろな見方や考え方をもちて生きていることを理解しながら学んできた。自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、自分の将来のことも考える時期である。これまで学んできたことを生かし、多様な価値観をもつ人が生きる社会で「自分はこれからどう生きていきたいのか?」を考え、自身の将来を見据える。その将来を考える中で、自分に必要なものや磨くべきこと等を模索し、判断し、それらを確立させるため行動する姿を具現させたい。												
学びの基盤となる道徳的諸価値	自主、自律、自由と責任・向上心、個性の伸長・希望と勇氣、克己と強い意志・真理の探究、創造・思いやり、感謝・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神 勤労・よりよい学校生活、集団生活の充実・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度・国際理解、国際貢献・自然愛護・よりよく生きる喜び												
学びを構成する要素	社会 社会問題 国際問題 日本と諸外国の違い 自然環境 科学技術 SDGs 勤労 多様性 伝統文化 福祉 地域社会 政治 働き方 テクノロジー 芸術 ウェルビーイング												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
単元名(時数)	社会を考える (52時間)				アートがどのようなやり方で社会貢献に用いられているか情報を収集する。	社会をつくる (41時間)				社会に生きる (12時間)			
主な学習活動	○各自の問いをもとに、探究テーマを考える。 ○探究テーマをもとに、どんな活動をしたいかを考える。 ○東京研修で見てみたいこと、聞きたいことをもとに、研修先を天王洲アイルに決める。 ○天王洲アイルに誰に会い、どんなことを聞いたり調べたりしたいか、研修の計画を立てる。 ○東京研修で体験活動や調査活動を行う。学んだことをまとめる。 ○私たちの生活する岐阜ではどんなことを考えたり探究したりできそうか、東京研修で広がった視点を軸にしながら考える。		○東京研修での学びをもとに、岐阜でアートをを用いて活動している人を調べる。 ○岐阜でアートをを用いて活動をしているニュー銀座堂の渡邊さんに出会う。 ○岐阜柳ヶ瀬商店街を訪れ、アートがどのように使われているかを調査する。 ○自分たちがやってみたいアートを考える。 ○アートを発信する方法としてSNSの使い方をgifugramの波多野さんから聞く。 ○自分たちがやってみたいアートをアーティストに提案する。			○夏休みに行った個人探究について交流し、アートが社会の中でどのような役割を果たしているか分析する。 ○岐阜柳ヶ瀬商店街でアートがどのように活用されているか調査する。 ○岐阜柳ヶ瀬商店街の水野さんやイベント実行委員の方と出会い、話を聞く。 ○イベントの計画を立てる。各担当に分かれ、協力して下さる方や企業にアポイントを取る。 ○各担当と協力して下さる方で思いを共有し、イベント開催に向けて準備をする。 ○柳ヶ瀬商店街の方の意見をもちに、修正する。 ○地域の小学校や地域の方へイベントの告知を行う。 ○イベントを開催する。 ○イベントを通して見たこと、聞いたこと、感じたことを、交流する。 ○イベントの改善案を考える。 ○柳ヶ瀬商店街の人へ改善案を提案する。 ○柳ヶ瀬商店街の人の意見をもとに改善案を修正する。				○2年間の探究を振り返り、まとめる。 ○自分が学んだことやまとめたことについて、自学塾に戻り交流する。 ○自分の問いについてまとめたことや、仲間の学習から学んだことをもとに、自分の考えの改善や成長をまとめる。 ○どう生きるかの学習で学んだことや考えたこと、自分の生き方についてまとめたことを、後輩に伝える。			
想定されるエラー(■) ジレンマ(●) 【道徳的諸価値】	■個々の問いはみんな違うけど、その中でどんなことをみんなと考えていけばいいのだろう。 ●なぜ渡邊さんは岐阜柳ヶ瀬商店街にアートコミュニティの場を作ろうとしたのか。自分がアートを作り、展覧するのでもよかったのではないかな。 ■自分たちが提案したアートに対し、「あなたたちの本当にやりたいことって何なの?」と言われてしまった。 【 相互理解、寛容 社会参画、公共の精神 勤労 国際理解、国際貢献 真理の探究、創造 】					■柳ヶ瀬商店街へ来る人が増えたことは嬉しいけど、その分様々な人への配慮を考慮することができなかった。 ●子どもを対象としたイベントで多くの方が訪れたのはよかったが、それによって別の問題も起きた。イベントを実施することが本当に商店街のためになったのだろうか。 【 相互理解、寛容 社会参画、公共の精神 勤労 国際理解、国際貢献 真理の探究、創造 郷土の伝統と文化の創造、郷土を愛する態度 】				■今までどう生きるかを考えできたけど、自分の人生をよりよくするにはどの考え方が大事になるだろう。 ●自分の行ってきた活動と仲間の行ってきた活動のどちらの良さも分かる。社会にとっては今どちらが大切になるだろう。 【 向上心、個性の伸長 希望と勇氣、克己と強い意志 社会参画、公共の精神 よりよく生きる喜び】			
人材活用施設	〈昨年度までの人材〉 7年生 ・柳ヶ瀬商店街・岐阜大学留学生センター・岐阜国際交流センター 8年生 ・ぎふコーラ・長良川漁協・都ホテル・カムカフスローラ・大日コンサルタント ・寺田倉庫 ・ニュー銀座堂 ・gifugram ・市役所					・東京研修での校外学習先で紹介してもらった人や企業 ・夏休みに調べたきた人や企業 ・ニュー銀座堂 ・岐阜で活動するアーティスト ・gifugram ・岐阜柳ヶ瀬商店街 ・岐阜市役所				・ニュー銀座堂 ・岐阜で活動するアーティスト ・gifugram ・岐阜柳ヶ瀬商店街 ・岐阜市役所			
教科等との関連	・国語：立場を尊重して話し合おう～討論で多角的に検討する～ ・社会：日本の地域的特徴と地域区分(人口、産業、交通、通信) ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・美術：学校の空間 ・英語：Unit2 Haiku in English				・国語：国語の学びを振り返ろう ～テーマを決めて話し合い、壁新聞をつくる～ ・社会：日本の諸地域 ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・美術：メッセージを考える ・英語：Unit6 Beyond borders				・国語：国語の学びを振り返ろう ～テーマを決めて話し合い、壁新聞をつくる～ ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・英語：Unit6 Beyond Borders				

9年Eグループ 単元シート		本単元の目標		
単元名 「社会」をつくる (41)		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
		①自分の問いやグループの探究テーマに迫るために、誰と出会い、どのような活動を行うか計画を立てることができるようにする。 ②問題解決に向けて何ができるか、様々な視点から手段・方法を考え、行動することができるようにする。	①問題解決に向けて実社会に生きる人や仲間と関係を築き、その考えや価値観を受け入れることができるようにする。 ②他者との関わりで導いた納得解や最適解をもとに、自分の関わり方を見つめることができるようにする。	①実社会に生きる人や仲間の多様な価値観に気づき、敬意をもって働きかけようとする態度を養う。 ②自分にできることを考え、積極的に活動に参加したり、提案したりしようとする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みに行った個人探究について交流する。交流したことや今までの学習をもとに、個人の問いやグループの探究テーマに迫るためにはどんな学習をしたいか考え、計画を立てる。(問題②) ○アートは社会の中でどのような役割を果たしているかを調査する。(問題①) ○岐阜柳ヶ瀬商店街をアートの視点で分析し、柳ヶ瀬商店街の水野さんやイベント実行委員の小山さんから話を聞く。(関係②) (5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○イベントの実行委員の小山さんからハロウィンイベントのコンセプトや概要を聞き、自分たちが参加する方法や工夫を考える。(貢献①) ○各担当に分かれ、柳ヶ瀬商店街の人にアポイントメントを取る。その方とどんな企画にしたいか交流する。(関係②) ○各担当で活動を計画し、ハロウィンイベントに向けて準備を行う。(問題②) (16) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が前期課程(小学校)校舎へ行き、ハロウィンイベントの開催の告知を行う。(関係①) ○ハロウィンイベントの最終打ち合わせを行う。(問題②) ○ハロウィンイベントを開催する。(関係②) ○ハロウィンイベントの経験を振り返り、感じたことをまとめ、交流する。(問題②) ○来年度のハロウィンイベントに向けた改善案を考える。(問題②) ○来年度イベントの改善案を柳ヶ瀬商店街の人に提案し、協議する。(関係①) (12) 	<ul style="list-style-type: none"> ○柳ヶ瀬商店街の人の意見をもとに、来年度のイベントの改善案を修正する。(問題②) ○他学年に向けて改善案を発表し、柳ヶ瀬のことを知る人を増やす。(関係②) (8)
加除修正欄	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の魅力を作るために柳ヶ瀬商店街が行っている企画を調査する。(問題①) 	<ul style="list-style-type: none"> ○各担当に分かれ、柳ヶ瀬商店街の人にアポイントメントを取る。その方とどのような企画にしたいか交流する。(関係②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○来年度の柳ヶ瀬商店街のイベントについて考える。(問題②) ○来年度、柳ヶ瀬商店街で実施するイベントについて協議する。(関係①) 	
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・アートは社会で多く使われていることが分かる。社会にどんな影響を与えているのだろう。 ・柳ヶ瀬や岐阜のまちでアートを活かした活動をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の授業で使ったアプリを用いてチラシを作ることができそう。 ・私は参加者が楽しみ、まちの人と交流が生まれるイベントにしたい。 ・柳ヶ瀬商店街の人とともにハロウィンイベントを成功させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの人に私たちの思いを伝えるために、直接宣伝をしたい。 ・柳ヶ瀬の人や参加者全員がよかったと思うイベントにするには何が必要だろう。 ・今回のイベントをよりよいものにして続いていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柳ヶ瀬商店街の人の思いも大切に、改善案を修正したい。 ・自分たちが企画したことや考えた改善案を、他学年に伝え、今後も柳ヶ瀬商店街に関わる人が増えてほしい。
実際の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・高島屋が閉店した柳ヶ瀬商店街で活動する水野さんの動画を見て、私たちも柳ヶ瀬の再興に協力したいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柳ヶ瀬商店街の人から、柳ヶ瀬らしさとは何かを聞かれ、うまく答えることができなかった。そのため、柳ヶ瀬商店街についてもう一度調べた。 		
●シレンマ ■エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■柳ヶ瀬商店街へ来る人が増えたことは嬉しいけど、その様々な人への配慮を考慮することができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもを対象としたイベントで多くの人が訪れたのはよかったが、それによって別の問題も起きた。イベントを実施することが本当に商店街のためになっただろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●私たちがやりたいことと、社会が求めているものが違った。自分たちのやりたいことも社会が求めていることもどちらも間違っていない。どうしたらよいだろう。 	

9年生Eグループ 本時案 (南舎2階多目的ホール)

目標

柳ヶ瀬商店街で実施したハロウィンイベントを振り返り、来年度に向けた改善案を協力してくださった方へ提案する活動を通して、「人と人がつながるイベントにするために、来年度のイベントをよりよくしたい」という願いを基に、同じグループの仲間やイベントに協力してくださった方の考えを共感的に受け入れたり、折り合いをつけたりし、改善案やイベントを来年度以降も発展していくようにと考えることができる。(関係構築力)

本時 (27/41)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 イベントの振り返りから、本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たちのグループでは「岐阜に行きたいと思えるまちにしたい」という探究テーマで学びを進めてきました。柳ヶ瀬商店街で行われるハロウィンイベントでアートを利用し、企画運営してきました。今日はその経験をもとに、来年度に向けた改善案を発表します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人と人がつながるイベントにするために、来年度はどんな改善をすることができるだろう。</p> </div> <p>2 イベントに協力してくださった方へ、成果・課題や改善案を発表する。</p> <p>○柳ヶ瀬商店街のイベントを来年度に向けてどんな改善ができるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回のイベントでは、商店街のお店とアーティストの方がつながり、看板を作ることができました。お店の方の願いがアーティストの方の力で形になったことで、双方向の意見の折り合いをつけていくのがすごく難しかったが、話し合ったことでみんなの思いを一致させることができました。一緒に集まって話ができる機会を増やしたい。 私たちは、もっと子どもたちの動きを分かりやすくしないといけないと思いました。実際に参加者の動きを見ていると、待ち時間が多かったり、休憩が必要だったり、どこで何ができるのかを話せるスタッフの数が必要だと感じた。 <p>3 改善案を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街にこれだけの人が集まること分かったから、企画をもっと増やしたい。しかし、その分対応も難しくなるため、ボランティアの募集をかける必要があると分かった。また協力してくれる企業を増やすこともできそうだと教えてもらったため、ハロウィンの仮装イベントをもっと大規模にできそう。 今回はイベントで多くの人を集めることができた。しかし、参加者が多く、苦勞している人がいたことも分かった。参加者を増やすことも大切だが、様々な参加者がいることも配慮したい。 アーティストの方にも装飾を協力してもらったことでクオリティの高いものができた。お金を集めて、有名なアーティストの方に書いてもらうのはどうだろう。参加者や商店街の負担になってはいけないが、私たちが作った人とのつながりを生かすことはできるはずだ。 <p>4 本時の学びの振り返りをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントを通して、多くの人と意見を重ねるうちに、それぞれの立場をつなげて個別では生み出せなかった良さを生み出すことができるようになってきた。これがみんなで創り上げることの大切さだと思うし、こうやって自分が意見を言うことでよりよいものに変えていけるといいなと思った。 	<p>○柳ヶ瀬商店街の人やアーティストとの関わりが想起できるように今までの学びを掲示する。</p> <p>○ハロウィンイベントでの経験やこれまで考えてきたことを振り返り、本時の学習の目的を共有する。</p> <p>○「どうしてその改善案を提案したのか」と問い返し、経験から自分の意見を語れるようにする。</p> <p>○イベントに協力してくださった方と交流することができる場を位置づけ、生徒がイベントの改善案をより客観的に見つけ直すことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ゲストティーチャー (予定)</p> <p>浅野商店 サツキテラー 柳ヶ瀬商店街でお店を出している方 ニュー銀座堂のアーティストの方</p> </div> <p>○意見を再構成する場を位置づけ、生徒がイベントに協力してくださった方の意見を聞いて、考えたことや迷ったことを共有することができるようにする。</p> <p>○様々な人の意見に触れた子どもの意識の変化が分かる記述を紹介し、これからどうすればよいか見通しをもつことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>自分たちが実施したイベントでの経験をもとに、同じグループの仲間や協力してくださった方の考えを共感的に受け入れ、来年度以降のイベントをより発展させようと提案する姿から見届ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体交流の場での発言の様子やノートの記述から見届ける。 </div>